




2018年9月期 第2四半期
決算説明会

2018年5月30日



(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

 **日本農薬株式会社**

<http://www.nichino.co.jp>

決算説明会 次第

- I. 世界の農薬市場**
- II. 2018年9月期第2四半期実績**
- III. 成長戦略の進捗状況**
- IV. 2018年9月期見通し**
- V. 質疑応答**

Ⅰ. 世界の農薬市場



ご覧のグラフは、2008年から2017年までの10年間の世界の農薬市場の推移を地域別に表したものです。

世界の農薬需要は人口増加や新興国の経済発展などを背景に2009年から2014年までの間、右肩上がりで大きく拡大しました。しかしながら、2015年は一部地域での天候不順による病害虫の小発生や過年度の流通在庫の影響などから減少に転じ、さらに、2016年は前年比2.5%減の499億ドルと2年続けて減少しました。2017年の速報値では前年比で増加しているものの、農薬需要の回復には地域差がみられ、当社に取りましては特に縮小傾向が続くラテンアメリカ最大のブラジル市場の影響を受けております。

世界の農薬市場

北米

米国での棉の作付拡大、カナダの好天などで需要が増加

中南米

世界最大市場のブラジルで病害虫の小発生、GMO大豆の普及、流通在庫の影響から需要減少

アジア

インドは、モンスーン降雨の回復により水稻の作付が平年並みに
ベトナムは、病害虫の小発生で需要が減少

日本

農家の高齢化、後継者難、耕作放棄地の増加などから漸減傾向

次に、地域別の2017年の市場動向をご説明いたします。

北米では、棉の作付面積の拡大やカナダでの好天などで需要が増加した結果、農薬の販売額は前年から増加しました。

一方、中南米では、世界最大の市場であるブラジルにおける病害虫の小発生や、GMO作物の拡大、過年度の流通在庫の滞留から縮小を続けており、農薬の販売額は前年から減少しました。

また、欧州では、天候不順や病害虫の小発生により農薬需要は低調に推移しました。アジアでは、ベトナムなど一部地域で病害虫の小発生による需要の減少があったものの、その他の東南アジア地域が好調に推移したほか、インドで雨季の降水量が回復したことにより、水稻の作付が平年並みとなったことなどから、農薬の販売額は前年比で増加しました。

なお、国内の農薬市場は、農業従事者の高齢化、後継者不足の深刻化、耕作地面積の減少、また、政府による農業資材費の低減方針などを背景に、農薬市場は中長期的な漸減傾向が継続しております。

このように、当業界を取り巻く環境は短期的には厳しさを増しておりますが、世界人口は今後さらに増加する見込みであります。人口増加に伴う食料需要の増大に応えるには、食料の増産が必要であり、農業資材である農薬の需要は今後とも拡大すると考えております。

II. 2018年9月期第2四半期実績

2018年9月期第2四半期決算実績

増収増益

(単位:億円、%)

	18年度上期	17年度上期	前年同期比	伸び率
売上高	370	355	15	4.1
国内農薬販売	140	135	5	3.5
海外農薬販売	197	177	20	11.5
化学品・医薬品他	20	20	0	1.7
ノウハウ技術料	4	13	△9	△67.3
その他	9	10	△2	△17.6
売上原価	247	233	15	6.4
売上総利益	122	122	△0	△0.1
販売費及び 一般管理費	85	86	△1	△1.7
営業利益	37	36	1	3.7
経常利益	40	38	2	4.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	25	24	1	5.9

Chemical Innovator for Crop & Life

5

当第2四半期の売上高は、370億円と前年同期比15億円、4.1%の増収であります。事業部門別の状況につきましては、後ほどご説明いたしますが、ノウハウ技術料収入の減少があったものの、シプカムニチノーブラジルの決算期変更に伴う業績計上時期の変更による同社の売上高の増大などから増収となりました。利益面では売上高の増加に加えニチノーアメリカの業績が堅調に推移したことなどにより、営業利益は37億円と前年同期比1億円、3.7%の増益であります。経常利益は40億円と前年同期比2億円、4.3%の増益であります。さらに、親会社株主に帰属する四半期純利益は25億円と前年同期比1億円、5.9%の増益であります。

2018年9月期第2四半期決算実績(前年同期比)

売上高 355億円 → 370億円 (+15億円)

営業利益 36億円 → 37億円 (+1億円)

(営業利益)

海外子会社 営業利益増加 + 5億円

その他海外農薬販売の増収 + 1億円

国内農薬販売の増収 + 3億円

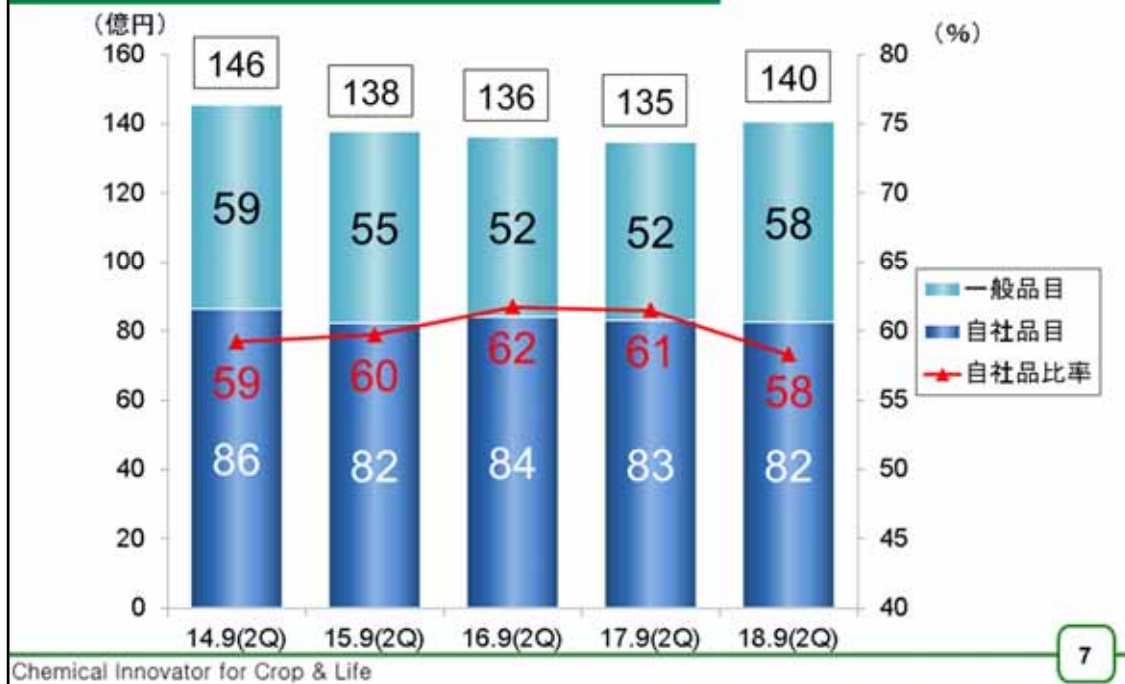
販管費の減少 + 1億円

ノウハウ技術料の減少 - 9億円

当第2四半期決算は、営業利益が前年同期比1億円の増益となりましたが、その主な要因についてご説明いたします。増益要因として海外子会社の営業利益増加5億円、その他海外農薬販売の増収1億円、国内農薬販売の増収3億円、販管費の減少1億円が挙げられます。一方で、減益要因として、ノウハウ技術料の減少による9億円があり、差し引きで1億円の増益であります。

国内農薬販売 - 売上高構成比

品目ポートフォリオ拡充で増収



ご覧のグラフは、国内農薬販売の売上高構成比の推移を表したものです。

当第2四半期は、新規殺センチュウ剤「ネマクリーン」の販売を開始したほか、除草剤分野での品目ポートフォリオ拡充を図るとともに、主力自社開発品目である園芸用殺虫剤「コルト」などの普及拡販に努めました。

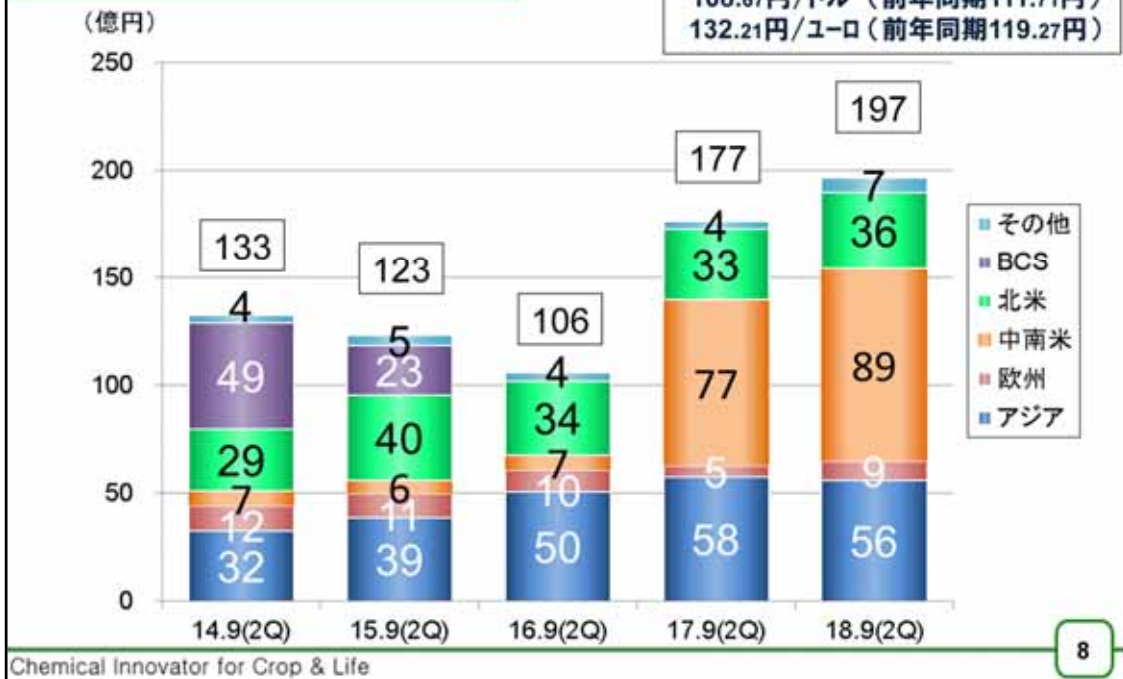
農薬原体販売では、園芸用殺虫剤「コテツ」、「フェニックス」などの主力品目の当用期に向けた販社への出荷が好調に推移しました。

この結果、国内販売全体の売上高は140億円と前年同期比5億円の増収であります。

海外農薬販売 - 地域別売上高

中南米の売上高伸長

実績為替レート
 108.67円/ドル (前年同期111.71円)
 132.21円/ユーロ (前年同期119.27円)



ご覧のグラフは、海外農薬販売の地域別売上高の推移を表したものです。従来、バイエル社向けのフェニックス原体販売を欧州に含めておりましたが、一過性であったことから紫色で区別して記載をしております。ご覧のように一過性の原体販売を除きますと海外販売は継続して成長していることがお分かり頂けると思います。

当第2四半期は、先程ご説明したシプカムニチノーブラジルの決算期変更に伴う業績計上時期の変更により同社の売上高が増加したことなどから、中南米の売上高が拡大しました。また、北米も堅調に推移しております。その結果、為替は円高基調で推移したものの、海外販売全体の売上高は197億円と前年同期比20億円の増収であります。なお、当第2四半期の為替の実績は、ここにお示したとおりであります。

化学品・医薬品他 - 事業部門別売上高

化学品事業が増収

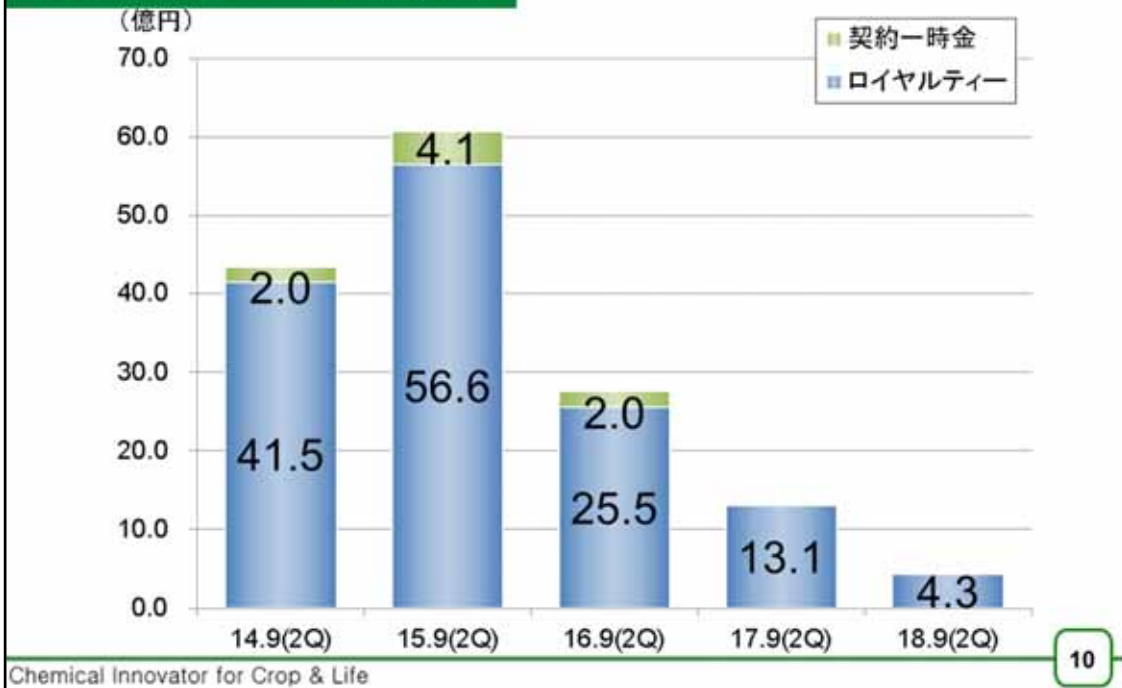


ご覧のグラフは、化学品・医薬品他の事業部門別売上高の推移を表したものです。

化学品事業では、シロアリ薬剤分野で株式会社アグリマートの売上高が伸長しました。一方、医薬品事業では、外用抗真菌剤「ルリコナゾール」の爪白癬分野での販売が堅調に推移しましたが、足白癬分野での販売が伸び悩みました。これらの結果、化学品・医薬品他全体の売上高は、20億円と前年同期比横ばいであります。

ノウハウ技術料

ロイヤルティーが減少



ご覧のグラフは、ノウハウ技術料の推移を表したものです。青色はロイヤルティー、緑色は契約一時金を示しております。

当第2四半期は技術導出先の主要販売地域であるブラジルでの害虫の小発生の影響などから売上高が伸び悩み、ロイヤルティーが減少しました。また、契約一時金の計上がなかったこともありノウハウ技術料全体では約4億円と前年同期比9億円の減収であります。

国内グループ会社主要実績

(単位:百万円、%)

		2018年度上期	2017年度上期	前年同期比	伸び率
ニチノ一サービス	売上高	1,994	2,193	△ 199	△ 9.1
	営業利益	107	106	0	0.3
	当期純利益	63	54	8	16.4
ニチノ一緑化	売上高	725	813	△ 87	△ 10.8
	営業利益	△ 23	0	-	-
	当期純利益	△ 12	0	-	-
日本エコテック	売上高	380	408	△ 28	△ 6.9
	営業利益	6	22	△ 15	△ 70.0
	当期純利益	6	18	△ 11	△ 63.8
アグリマート	売上高	664	554	110	19.9
	営業利益	72	42	30	71.3
	当期純利益	46	26	20	75.0

ご覧の表は、国内グループ会社の当第2四半期の主要実績を表したものです。

海外グループ会社主要実績

(単位:百万円、%)

		2018年度上期	2017年度上期	前年同期比	伸び率
ニチノアメリカ	売上高	3,578	3,300	278	8.4
	営業利益	466	176	290	164.1
	当期純利益	335	98	236	239.6
日佳農薬	売上高	156	158	△ 2	△ 1.7
	営業利益	15	12	2	22.2
	当期純利益	13	10	3	31.6
ニチノインド	売上高	3,014	2,956	57	2.0
	営業利益	△ 30	54	-	-
	当期純利益	△ 14	17	-	-
SNB	売上高	7,993	6,819	1,173	17.2
	営業利益	1,086	828	258	31.2
	当期純利益	598	374	223	59.9

ご覧の表は、海外グループ会社の当第2四半期の主要実績を表したものです。

表の一番上に記載のニチノアメリカは、園芸用殺虫剤「アプロード」がかんきつ、ウォールナッツ向けで販売が好調に推移したことなどから増収増益であります。

また、下から二番目に記載のニチノインドは、昨年12月にハイデラバードケミカルから社名変更いたしました。

Ⅲ. 成長戦略の進捗状況

中期経営計画の基本方針

ビジョン

**Nichino Group -
Growing Global**

世界で戦える優良企業へ
-農業支援等を通じた社会貢献-

中期経営計画

**Advance to グローバル企業への前進
Growing Global 2018**

収益の向上

- 国内事業の収益力向上
- コスト競争力の向上
- 経費の適正化

成長戦略の推進

- 創薬力の強化
- 事業競争力の向上
- グループ力の強化

事業基盤の強化

- 人材育成・活用
- グローバル経営の基盤構築

Chemical Innovator for Crop & Life

14

当社グループは、2016年度を初年度とする3カ年の中期経営計画「Advance to Growing Global 2018 グローバル企業への前進」を推進中であり、今期がその最終年度に当たります。

当社グループは、この中期経営計画期間中に「収益の向上」と「成長戦略の推進」を2本柱として、M&Aや提携などの「事業拡大への取り組み」を実行し、事業規模の拡大を図ってまいりました。

また、これらを実行するための「事業基盤の強化」にも積極的に取り組み、中期経営計画とグループビジョンの達成を目指しております。



ご覧のグラフは、2007年度から2021年度までの売上高と営業利益の実績と計画を表したものです。

2007年度から2012年度までの6年間は、事業基盤整備と成長への準備期間との位置付けであり、この間の業績は安定的ではありませんでしたが、2013年度から、研究開発への投資を強化して企業理念を具現化し、将来のさらなる成長と飛躍を目指すために、積極的な目標設定とそのための戦略立案が必要であると判断し、成長路線へ舵を切ることといたしました。

当社グループは、2021年度の売上高1,000億円をマイルストーンとして捉え、将来的にはグループビジョンである世界でトップ10に入る売上高2,000億円を超える研究開発型企業を目指してまいります。

なお、中期経営計画最終年度であります今期業績の見通しについては、後ほどご説明いたします。

海外展開の進捗状況(1)



NICHINO INDIA (NIL)

グループシナジー
加速

2016年9月期

- 「フェニックス」販売開始
- 「フジワン」「アプロード」原体合成開始

2017年9月期

- 「フジワン」「アプロード」原体当社向け輸出開始
- 「アプロード」原体のインド販社への提供開始
- 株式追加取得(出資比率99.9%)

2018年9月期～

- 当社開発品目の販売拡大
- 当社原体の製造品目拡大
- ベンズピリモキサンの日・印同時開発
- 研究開発機能の充実



これまでの成長戦略の進捗状況と主な成果についてご説明いたします。

まず、海外展開の進捗状況について具体的にご説明いたしますと、ニチノーインドアでは、市場拡大が続くインド市場における直販体制の確立に向けた施策を継続的に実施しているほか、グループの原体製造機能強化への取り組みとして、2016年9月期より水稲用殺菌剤「フジワン」、園芸用殺虫剤「アプロード」の原体製造を実施しておりますが、前期より、これら原体の当社への輸出、ならびにアプロード原体の既存販社への提供を開始いたしました。また、株式を追加取得し、当社の出資比率は99.9%となりました。

今後は水稲用殺菌剤「ブイゲット」など当社原体の製造品目拡大を検討しているほか、現在開発中の新規水稲用殺虫剤「ベンズピリモキサン」の日本・インド同時開発を進めており、当社品目のさらなる拡販を図ってまいります。

さらに、研究開発機能を充実し、当社グループとしてのシナジーを加速させるべく検討を進めております。

海外展開の進捗状況(2)

Sipcam Nichino Brasil S.A. (SNB)

グループの
規模拡大に貢献

～2017年9月期

- 「アプロード」「ダニトロン」販売開始
- 「オルトスルフアムロン」本格販売開始
- 連結化に伴う当社グループ事業規模拡大

2018年9月期～

- 当社開発品目の販売拡大
- 「アプロード」「ダニトロン」SNBでの製剤開始
(2020年頃)
- 「フェニックス」販売開始予定
(2021年9月期～)



Chemical Innovator for Crop & Life

17

シプカムニチノーブラジルでは、2016年9月期より「アプロード」ならびに「ダニトロン」の販売を開始しました。また、前期から連結子会社化したことに伴い当社グループの事業規模拡大に大きく貢献しているほか、サトウキビ用増糖剤「オルトスルフアムロン」の販売を本格的に開始しました。

今後はさらに当社開発品目の一層の拡販を目指すとともに、「フェニックス」については、現在バイエル社に独占販売権を与えていますが、本剤の特許が満了した後の2021年9月期からの販売開始を計画しており、現在開発中であります。

海外展開の進捗状況(3)

NICHINO VIETNAM

直販拠点の確立

2017年9月期 現地法人設立

- 拡大するベトナム市場における直販拠点の確立
- 自社主導による商流・開発・登録の実施
- 当社開発品目の潜在需要の掘起し

2018年9月期

- 「フェニックス」「アチーブ」直販開始
→ 当社開発品目の販売拡大



東南アジアでは、拡大するベトナム市場における直販拠点の確立を図るべく新たにニチノーベトナムを設立し、今期より現地にて「フェニックス」、水稲用殺菌剤「アチーブ」の直販を開始しております。

今後は当社開発品目の潜在需要の掘り起こしを図り、さらなる販売拡大を目指してまいります。

海外展開の進捗状況(4)



NIHON NOHYAKU ANDICA

**直販/物流拠点
の確立**

2018年9月期 Adnicol社を子会社化し社名変更

- 拡大するアンデス・中米地域における直販/物流拠点の確立
- 当社主導による商流・開発・登録の実施
- 当社開発品目の潜在需要の掘起し

2018年9月期～

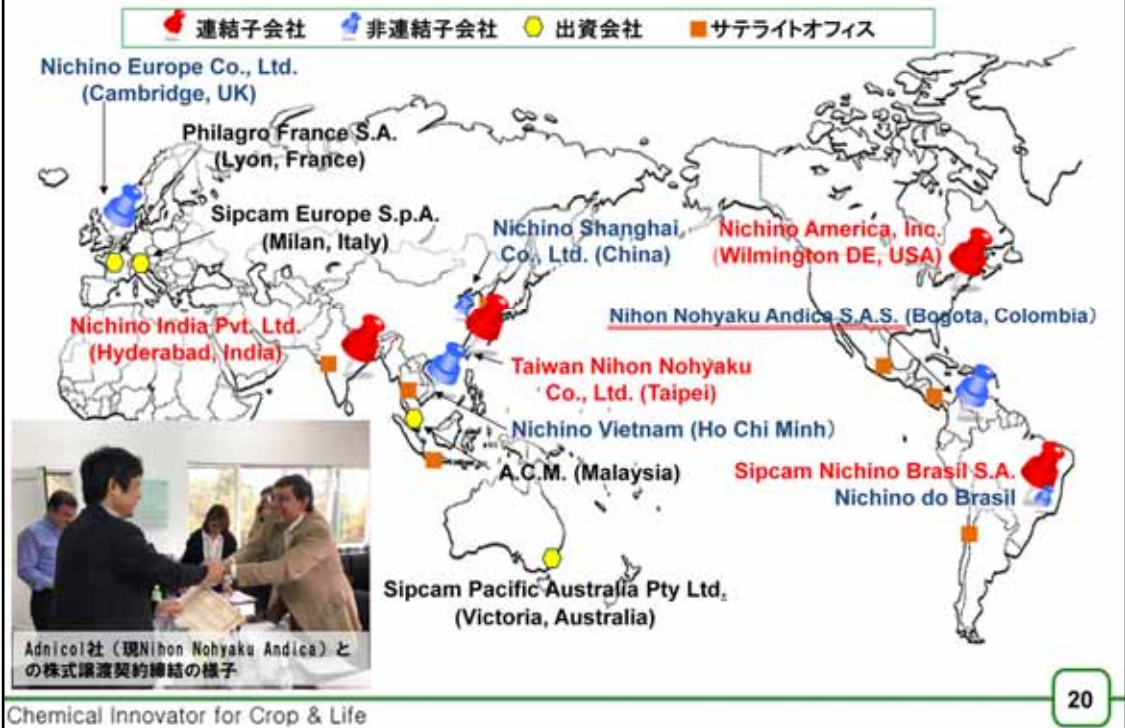
- 当社開発品目の販売拡大
- 当社開発品目 直販開始予定(2023年以降)



中南米では、拡大するアンデス・中米地域における直販・物流拠点の確立を図るべく、従前よりコロンビアにおける農薬登録の維持管理を委託しておりましたAdnicol社を完全子会社化し、ニホンノウヤクアンディカに名称変更いたしました。

今後はコロンビア国内での直販開始を予定しているほか、当地域における販売・開発・物流を同社で一元統括し、当社グループの一層の事業拡大を図ってまいります。

Nichino Group 海外展開の状況



ご覧の世界地図は、当社の海外拠点を表したものです。

海外の主要3社であります、ニチノアメリカ、ニチノインド、シプカムニチノブラジルのほか台湾の自販会社、また非連結の子会社5社と出資会社4社を含め世界各地に開発・マーケティング拠点、販売拠点および生産拠点を構え、「グローバル企業への前進」を図っております。

新規殺菌剤ピラジフルミド上市

創薬難度が高まる中、新規剤を着実に上市
毎期売上高の約10%を研究開発に投資

園芸用殺菌剤「パレード」(ピラジフルミド)

- 日本で2018年4月より販売開始
- 韓国で登録申請済、2019年に登録取得見込
- 米国で2019年登録申請予定、2022年に登録取得見込
- 欧州、ブラジル、アジア地域での開発も検討中



日本における新規市場開発、海外における
 新規開発を含めて将来的にピーク時売上で
 50億円以上を目指す



21

Chemical Innovator for Crop & Life

次に、成長戦略のもう一つの柱であります研究開発力の強化についてご説明いたします。

近年、新たな生理活性化合物の発明、発見すなわち「創薬」の難度は著しく高まっており、加えて安全性評価の高度化や既存登録維持コストなどの研究開発費の負担が急速に増大しております。

このような状況下、当社は毎期売上高の約10%を研究開発に投じ、研究開発力の一層の強化を図り、3年に1剤の新規剤投入を目指しております。

今期においては、かねてより開発を進めておりました汎用性殺菌剤ピラジフルミド、商品名「パレード」を本年3月に登録取得し、4月より販売開始いたしました。3年前に上市した殺ダニ剤「ダニコング」に続き、3年に1剤の上市を果たしていることをご理解いただければ幸甚です。

本剤は韓国で登録申請を完了しており、2019年の登録取得を見込んでおります。

米国においても2019年に登録申請を予定しており、2022年の上市を目指して鋭意開発中であります。

その他、欧州、ブラジル、アジア地域での開発を検討しているほか、日本で既存剤にはないセルトレイ灌注処理という新規市場開発を進めており、ピーク時で国内外合わせて売上高50億円以上を目指しております。

パイプライン剤

水稲用殺虫剤

「ベンズピリモキサン」(NNI-1501)

- ウンカ、ヨコバイ類に卓効
- 日本およびインドで2018年に登録申請予定
- 日本で2021年に上市予定
- インドで2023年に上市予定



次に、当社のパイプライン剤についてご説明いたします。

新規水稲用殺虫剤「ベンズピリモキサン」(NNI-1501)は、2015年5月に日本・インド同時開発を機関決定し、日本ではパレード上市より3年後の2021年、インドでは2023年の上市に向けて両国での開発を進めております。

本剤は、ウンカ、ヨコバイ類に卓効を示しており、ピーク時売上高につきましては、国内で10億円、インドでは約50億円を見込んでおります。

既存自社開発品目の海外展開促進

園芸用殺虫剤「コルト」(ピリフルキナゾン)

米国で食用登録申請済、2018年販売開始目標

汎用性殺虫剤「ハチハチ」(トルフェンピラド)

米カリフォルニア州で適用拡大、ブラジルでも登録申請済

園芸用殺虫剤「フェニックス」(フルベンジアミド)

ブラジルで登録申請済、2021年販売開始目標

SU系除草剤「オルトスルファミロン」

新規混合剤検討を継続、グローバルな拡販目指す

次に、既存自社開発品目の海外開発の進捗状況についてご説明いたします。

園芸用殺虫剤「コルト」は、ニチノアメリカと協働で米国において2016年8月に食用登録を申請し、本年中の販売開始を目指しております。

汎用性殺虫剤「ハチハチ」は、すでに米国一部地域で販売していますが、さらに主要市場であるカリフォルニア州での適用拡大を進めております。また、ブラジルにおいても既に登録申請済みであり、登録国や地域を拡大しております。

園芸用殺虫剤「フェニックス」は、ニチノブラジルと協働し、ブラジルでの原体および製剤の登録申請を2016年に完了しており、2021年の販売開始を目指しております。

2013年10月にイタリアISEM社より譲り受けた「オルトスルファミロン」は、水稲用除草剤およびサトウキビ用増糖剤として有用な剤であり、新たな販社起用などにより今後の販売は順次伸長する見込みであります。また、新規混合剤の開発検討、新規分野への適用拡大を継続しており、グローバルな拡販支援に努めています。

次期中期経営計画の方向性

➤ ビジョンの追求

* Nichino Group-Growing Global 「世界で戦える優良企業へ」

➤ ビジョン達成のための「**基盤強化**」の期間とする

➤ 既の実施した積極策含めた**既存事業の収益力強化**を確実に実行

➤ **新たな積極策**（品目買収、M&Aなど）の実現

**⇒最終年度の2021年度に
連結売上高1,000億円目指す**

次に、現在策定中の次期中期経営計画の方向性についてご説明いたします。

現中期経営計画期間には、ニチノーベトナムやニホンノウヤクアンディカの設立などの積極策を実施したほか、前中期経営計画期間において買収したニチノーインドア、シブカムニチノーブラジルとのグループシナジーを追求し、一定の成果を上げることができました。

次期中期経営計画では、グループビジョンであるNichino Group-Growing Global「世界で戦える優良企業へ」をさらに追求し、Growing Globalを確固たるものとする「基盤強化」の期間としたいと考えております。

既の実施した積極策を含めた既存事業の収益力強化を確実に実行するとともに、新たな積極策（品目買収・M&A等）を実現することにより、最終年度の2021年度に連結売上高1千億円達成を目指します。

次期中期経営計画は、本年11月に公表予定です。次回の決算説明会では、より具体的な目標を明確に皆様にお伝えしたいと考えております。

IV. 2018年9月期見通し

2018年9月期計画(前期比)

増収増益

(単位:億円、%)

	18年9月期計画	17年9月期実績	前期比	伸び率
売上高	680	600	80	13.3
国内農薬販売	208	196	12	6.1
海外農薬販売	399	323	76	23.5
化学品・医薬品他	48	48	0	0.0
ノウハウ技術料	6	14	△ 8	△ 57.7
その他	19	19	△ 0	△ 0.5
売上原価	460	390	70	18.0
売上総利益	220	211	9	4.5
販売費及び 一般管理費	176	176	0	0.2
営業利益	44	35	9	25.8
経常利益	38	36	2	5.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	22	17	5	28.1

Chemical Innovator for Crop & Life

26

2018年9月期見通しにつきましては、期初計画から変更はございません。

売上高は、海外農薬販売の伸長を主要因に680億円と前期比80億円、13.3%の増収の計画であります。利益面では、主として売上高の伸長により営業利益は44億円と前期比9億円、25.8%の増益、経常利益は38億円と前期比2億円、5.6%の増益の計画であります。親会社株主に帰属する当期純利益は22億円と前期比5億円、28.1%の増益の計画であります。

2018年9月期見通し

増収増益

国内農薬販売

既存剤拡販と新規剤普及活動推進

- 流通の在庫適正化の影響懸念

海外農薬販売

ニチノーアメリカ、SNBによる成長牽引

- 為替変動の影響懸念
- 主要販売地域での天候不順、病害虫小発リスク

国内農薬市場では、流通での在庫適正化の動きが継続しており、下半期業績への影響が懸念されるものの、「フェニックス」、「コルト」、「ダニコング」などの既存剤拡販と、今期に販売を開始した「パレード」、「ネマクリーン」など新規剤の普及活動や水稲用除草剤の拡販を推進し、国内農薬販売の計画達成を目指してまいります。

また、海外農薬販売では、為替変動の影響が懸念されるほか、主要販売地域での天候不順や病害虫の小発リスクもあり、市場環境は不透明な状況が続いておりますが、連結子会社のニチノーアメリカおよびシブカムニチノーブラジルを中心とした販売拡大により、事業の成長推進を図ってまいります。

2018年9月期計画（前期比）

売上高 600億円 → 680億円（+80億円）

営業利益 35億円 → 44億円（+ 9億円）

（営業利益）

NIL、SNBの営業利益増加 + 9億円

その他海外農薬販売の増収 + 5億円

国内農薬販売の増収 + 5億円

ノウハウ技術料の減収 - 8億円

医薬品事業の減収 - 2億円

今期の営業利益の計画は44億円と前期比9億円の増益の計画であります。

その主な要因をご説明いたしますと、増益要因として、ニチノーインドアならびにシブカムニチノーブラジルの増収に伴う営業利益増加が9億円、その他海外農薬販売と国内農薬販売の増収による利益増加がそれぞれ5億円ある一方で、減益要因として、ノウハウ技術料の減収が8億円、医薬品事業の減収が2億円あり、差し引きで9億円の増益の計画であります。

国内農薬販売 - 売上高構成比

前期比増収



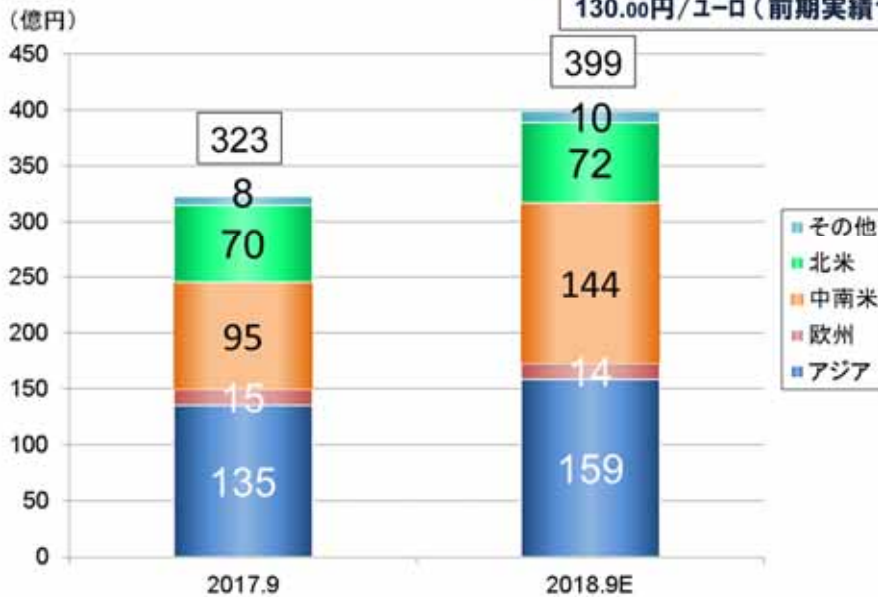
ご覧のグラフは、今期の国内農薬販売の売上高構成比を表したものです。

今期は、「ダニコング」、「フェニックス」を始めとする主力自社開発品目に加え、前期に上市したてんさい用除草剤「ビートアップ」および水稲用除草剤などの拡販に努め、さらに新規汎用性殺菌剤「パレード」の販売開始もあり、売上高は208億円と前期比12億円の増収の計画であります。今期より取り扱いを開始いたしました水稲用除草剤「バサグラン」の増加により、自社品比率は減少する見込みです。

海外農薬販売 - 地域別売上高

アジア・中南米の売上高伸長

計画為替レート
 110.00円/ドル (前期実績110.81円)
 130.00円/ユーロ (前期実績122.63円)



ご覧のグラフは、今期の海外農薬販売の地域別売上高を表したものです。

アジア地域では、各国での「フェニックス」の適用拡大と普及拡販を目指すとともに、過去2年連続の干ばつの影響を脱したインドのニチノーインディアの業績が引き続き回復することなどに伴い、売上高が伸長する見込みであります。

また、中南米では、シプカムニチノーブラジルの業績が通年分寄与するとともに同社のオペレーション支援を継続し、世界最大の農薬市場であるブラジルでの普及販売体制の強化に努め、当社開発品目の拡販を見込んでおります。

これらの結果、海外販売全体の売上高は399億円と前期比76億円の増収となる見込みであります。これに伴い、当社グループの売上高に占める海外販売の割合は前期の53.8%から58.7%へとさらに伸長する見込みです。

なお、今期の為替の計画は変更ございません。

化学品・医薬品他 - 事業部門別売上高

医薬品事業が減収



Chemical Innovator for Crop & Life

31

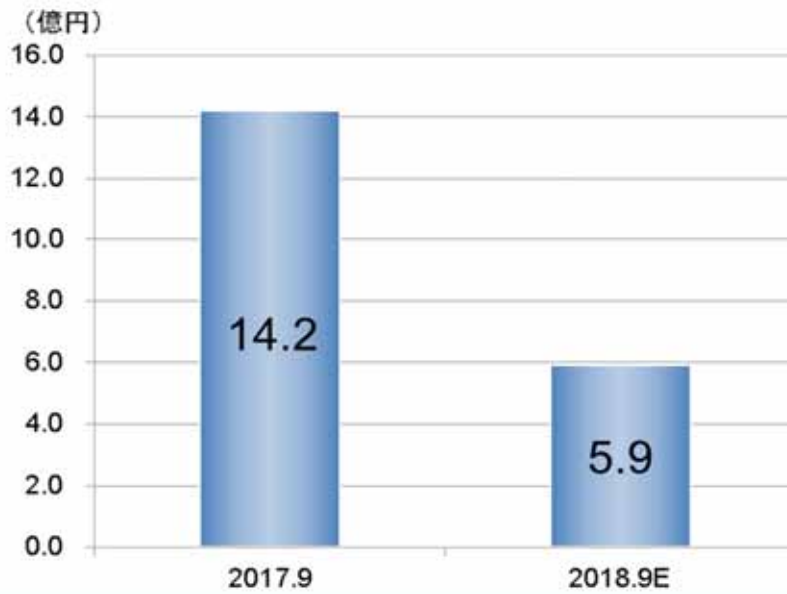
ご覧のグラフは、今期の化学品・医薬品他の売上高を表したものです。

化学品事業では、アグリマートとの協働による販社への技術普及の推進に努め、シロアリ薬剤事業の維持・拡大を目指します。

一方、医薬品事業では、外用抗真菌剤「ルリコナゾール」の基本特許満了に伴う後発品参入によるシェア低下と供給価格の切り下げを見込み、減収の計画であります。

ノウハウ技術料

ロイヤルティーが減少



Chemical Innovator for Crop & Life

32

ご覧のグラフは、今期のノウハウ技術料の見通しを表したものです。
今期のノウハウ技術料は、約6億円の見込みであります。

国内グループ会社主要業績

(単位:百万円、%)

		18年9月期計画	17年9月期実績	前期比	伸び率
ニチノーサービス	売上高	4,227	4,119	107	2.6
	営業利益	163	165	△ 2	△ 1.6
	当期純利益	111	244	△ 133	△ 54.6
ニチノー緑化	売上高	1,864	1,739	124	7.1
	営業利益	17	10	6	68.7
	当期純利益	9	4	4	83.3
日本エコテック	売上高	830	770	59	7.8
	営業利益	72	5	66	1157.5
	当期純利益	51	△ 31	-	-
アグリマート	売上高	1,492	1,408	83	6.0
	営業利益	123	127	△ 4	△ 3.6
	当期純利益	75	77	△ 2	△ 3.5

ご覧の表は、今期の国内連結子会社の主要業績を表したものです。
各社とも計画達成に向け、各種施策に取り組んでおります。

海外グループ会社主要業績

(単位:百万円、%)

		18年9月期計画	17年9月期実績	前期比	伸び率
ニチノアメリカ	売上高	7,205	6,977	227	3.3
	営業利益	337	551	△ 215	△ 38.9
	当期純利益	178	388	△ 211	△ 54.1
日佳農薬	売上高	524	418	105	25.3
	営業利益	67	45	21	47.2
	当期純利益	54	37	16	42.7
ニチノインド	売上高	9,908	7,584	2,323	30.6
	営業利益	592	260	331	127.6
	当期純利益	442	146	295	201.9
SNB	売上高	12,563	7,626	4,936	64.7
	営業利益	1,262	725	536	73.8
	当期純利益	277	73	203	276.3

ご覧の表は、今期の海外連結子会社の主要業績を表したものです。

表の一番上に記載のニチノアメリカは、増収ながら開発経費の増加などから減益の計画であります。

また、表の下から2番目のニチノインドの業績が引き続き伸長すると共に、一番下に記載のシブカムニチノブラジルは、先ほどもご説明したとおり、今期は12カ月分の業績が寄与する計画であります。